

1人1台端末の活用による実践事例 (小・中学校用)

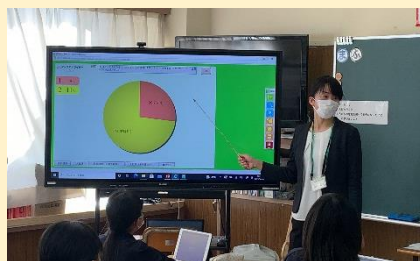
学校名	新見市立草間台小学校	実践者名	羽柴こなつ
教科	特別の教科 道徳	学年	第5・6学年(複式学級)
活用内容	アンケート 意見共有	実践日	令和3年10月28日
		授業活用段階 (岡山県版)	Stage 2
単元・内容等	「わたしのせいじゃない」 いじめの問題について考え、自分の弱さと向き合い、誰に対しても公正に接し差別や偏見のない社会をつくろうとする道徳的実践意欲を培う。		

活用の概要(目的・活用場面・使用アプリ名を含む)

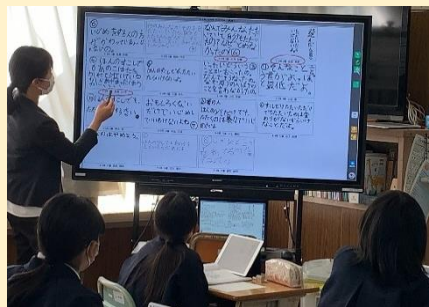
- 「いじめ」とは何かを考える。
 - いじめの定義について、確認する。
 - いじめとは、「心理的又は物理的な影響を与える行為(インターネットを通じて行われるものも含む。)」であることを押さえる。
- 「いじめが目前で起こった時止めることができるか」という問いにアンケートで答えた後、めあてをつかむ。
 - 児童はスタディネット*で、上記の質問に対して「はい」「いいえ」の二択で答える。
 - 教師は全体結果を電子黒板で提示し全体の傾向を示す。



めあて 「いじめ」をなくすために、大切なことは何かを考えよう。



- 自分なりの「いじめ」を止める方法を考える。
 - 教材を読んだ後、いじめの原因について考える。
 - 被害者を除く14人の登場人物に対して、自分ならだれにどう話しかけるかを考える。
(児童は、ワークシートに記入した後、スタディネットに入力する。)
 - ペア→全体で交流する。
- いじめをなくすために、大切なことは何かを考える。



授業支援システムを活用したことで、児童1人1人の意見をアンケート機能で瞬時に収集、グラフ化し、全体に分かりやすく提示し、話し合いをスムーズに進めることができた。また、それぞれの意見も電子黒板に投影し発表の際にも役立った。(指導主事より)

実践者の手ごたえ	児童生徒・保護者等の主な反応や声
児童の考えを全体ですぐに共有でき、児童同士が議論しやすくなる。瞬時に全員の考えを共有、自分の意見との比較、自分の意見の深化につなげることができる。	(保護者から) 発表が苦手な児童の考えや意見も、授業支援システムで全体の場で共有し、共感したり話し合ったりすることができていたので、とても便利だと感じた。

スタディネット*…タブレットと電子黒板を連携し、双方向な授業を可能とする授業支援システム

<https://www.study.gr.jp/product/snet/net/index.html>